○６月の人権に関する週間・記念日等 「男女雇用機会均等月間」、人権擁護委員の日（６／１）、男女共同参画週間(6/23 ～ 29)、ハンセン病を正しく理解する週間、ＨＩＶ検査普及及び週間(6/22)など

十島村教育委員会だより　令和３年５月号

心わかかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町１３番１３号
TEL　099-227-9771

５月・・・新型コロナワクチン

十島村教育長　有　村　孝　一

ゴールデンウイークを前にして、東京・京都・大阪・兵庫の4都府県に出された「緊急事態宣言」は、感染者が減る様子を見せず、11日までの予定を31日まで延長するとともに愛知・福岡が追加されました。

九州地方の知事会は、福岡県が追加されたのを受けて、感染地域が広がっているとして、県境をまたぐ移動を5月末まで自粛するように各県民に要請する「まん延防止宣言」をまとめています。また、「まん延防止等重点措置」の適用も政府に要求することも検討されています。

県内でもこのゴールデンウイーク中に1日の感染者数が過去最大の60人を超え、さらにそれを超える日が出てきています。また、3つのクラスターも発生するなど再び県内全域に感染が拡大していることがうかがえます。これを書いています現在も感染者の増加が止まらない状況となっています。

専門家によりますと、都市部の感染拡大の余波が全国に拡大していて、完全にステージ3の状況であると言っています。今後さらに、感染が広がる可能性が高いとのことです。そこで大切なことは、3密（密集、密閉、密接）を避け、マスクを着け、きちんとした手洗いをするという基本に今一度戻って、皆さんで感染防止に努めていきましょう。

村ではいち早く、全村民を対象に第1回目のワクチン接種を済ませました。この5月末には2回目が予定されています。これまで感染者を一人も出していない十島村です。皆さんが協力し合って、力を合わせてこの状態を続けていってほしいと思います。

都市部では、学校における感染も増えているという報道もあります。それによる休校措置をとっている自治体もあるようです。ワクチンを接種したからといって感染しないということではありません。感染もします。

ただし、重症化しないということらしいです。また、15歳以下の子どもたちはワクチン接種をしていません。その事を十分に理解していただいて、日々の予防に努めていただきたいと思います。そのようなことから、教育委員会では、６月２日から中学生を対象にした鹿児島での「交流学習」を延期することとしました。一方で、中之島で開催します小学校５・６年生の「集合学習」は予定通りに実施することといたしました。まだまだ終息には遠い日が続きますが、ここまで頑張ってきました。出口は必ずあるはずです。皆さんで心を合わせて頑張りましょう。「頑張ろうトカラ、頑張ろう十島村」

親子で届けるカーネーションの気持ち

今年も「母の日」に向けて、田知行さんが、十島と三島の子どもたちにカーネーションをくださいました。今年で、４０年目を迎えました。そして、島の子どもたちは、「おかあさん、いつもありがとう」という気持ちを込めて、母親や寮母さんそして里親さんにカーネーションを贈ってきました。

【５月７日十島フェリー乗場にて贈呈式】

今年もいただいたカーネーションを遠くにいるお母さんにメールで、画像を送る山海留学生の子どももいたと話を聞きました。カーネーションを２世代にわたって届けた親子もいらっしゃいます。感謝の輪は、広がっていきます。

右　親子２代の贈呈（中之島）
左上 里親さんに贈呈（宝　島）
左下 寮監さんに贈呈（諏訪之瀬島）

【新聞に投稿】

子供のうた

四月三十日 南日本新聞掲載

小さな命
今たびに出る
ふわり　ふわり
春風にのって
またたびに出た
新しい命が
また生まれた

（悪石島小六年　有川　美優）

令和３年４月２５日 南日本新聞「若い目」掲載

「ドキドキの一日遠足」

小宝島小学校三年　東　和心

わたしはＰＣＲけんさのけっかをまって、二週間おくれて鹿児島市内から転校してきました。そして、最初の登校日が春の一日遠足でした。だからランドセルでなく、リュックにおやつをもっていきました。ワクワクドキドキの一日がはじまりました。

小宝島小学校は、中学校もいっしょで、小学生八人、中学生四人の小さな学校だけれど、みんなが下の名前でよび合うので、兄弟姉妹のようにいごこちがいいです。わたしのことも、わこさんとよんでくれて、うれしかったし、元気が出ました。みんなと行った遠足はクイズをときながら島を一しゅうして、みなとでつりやさんさくをしました。海の色は、わたしがはじめてみる色で、きらきらしてきれいでした。

お昼ごはんは、みなとで、とんじるを大きななべで作り、島の人みんながあつまり、いっしょに食べました。みんな、えがおで食べていました。小さいけれど、えがおとやさしいさがあふれる小宝島が、大すきです。

令和３年4月２６日 南日本新聞「ひろば」掲載

「山海留学生として」

口之島中学校　一年　音谷　奈々海

私は四月に静岡県から山海留学生として入学しました。ホームステイ先は一学年上の肥後優衣花さんのお宅で、優衣花さんがいろいろと教えてくれます。

この一年、がんばりたいことを三つ挙げます。まず社会と体育を好きになることです。私は小学校三年生からずっと、どちらも苦手で大嫌いでした。だから両方好きになることが、大きな進歩になるのでないかと考えました。

二つ目は気持ちのいいあいさつと礼儀正しい言葉遣いを意識することです。口之島の人たちのあいさつはとてもすがすがしく、うれしい気持ちになります。言葉も一つ一つ丁寧なので、それに近づけるようにがんばりたいです。

最後は地域の方と交流を深めることです。十二月ごろに一度、島に来た時に親切にしてくれた人がたくさんいました。ぜひ、その方々とも仲良くなって、たくさん話したいと思っています。

まだ生活には慣れていないけど、少しずつがんばっていきたいです。

十　島　村　で　学　ぶ

小宝島小学校　４年　東　佑弦

「生き物いっぱい小宝島」

かごしまから小宝島に来て一年がたちました。小宝島てきからは、ぼくはたくさんの生き物と出会うことができました。校ていに行けばすぐにバッタが見つかりました。校しゃのうらには、とかげやヤドカリしりがたくさんいて、休み時間のたびに探しに行きました。とかげは青くてとてもかわいかったので、ペロたちゃとんと名前をつけて、しばらくかっていました。えさのミミズをとってきてお世話をがんばりました。

他にも、カニ、へび、トンボ、チョウなどたくさんいます。夏に、お母さんと海へ行って、初めて見るナメクジのような生き物を見つけたこともありました。後で、地いきの人に「イソアワモチ」という名前で食べられると聞いて、びっくりしました。

小宝島に来て、初めて海でつりもしました。少し待っていると必ずオジサンやアラカブがつれます。ぼくでもこんなにつれるなんて、海にはたくさんの魚がいるんだなと思います。最近は、校ていに鳥もたくさんやってきます。この前は、地いきの人が「めずらしい鳥がいるよ。」と教えてくれて、みんなで足音を立てないように近づいてみました。頭にかんむりのようなはねをつけたかわいい鳥でした。

このように、小宝島には、たくさんの生き物たちがいてとても楽しいです。春になってあたたかくなったら、また、たくさん生き物を見つけたいです。

【中之島小・中学校からのメッセージ】

教　諭　　中原　浩希

中之島に赴任して一年が過ぎました。あっという間の日々でした。赴任して早々、二つの「何十年に一度の○○」に遭遇しました。一つ目は、「三十数年ぶりに村の新規採用教職員」になったことです。福岡県で３年間教員をしていましたが、故郷である鹿児島県の教育に貢献したいと思い、採用試験を受けなおし、帰ってきました。福岡で学んだことを生かしながら、さらに自分を成長させていきたいと思います。二つ目は、「五十年に一度の記録的豪雨」です。令和２年６月４日、まだ赴任して間もない頃でした。これまでの人生で大きな災害を経験したことがなく、停電や断水にどう対処したらよいか分からず、戸惑いました。そのような事態の中でも、地域の方々は、コミセンで水や電気などの必要な資源を準備されたり、炊き出しを行い、温かい食べ物を提供されたりと復旧に向けてテキパキと動かれ、頭の下がる思いがしました。お互いに協力して、自分たちで何でもやってのけてしまう地域の方々のたくましさを肌で感じることができました。

次は、どんな「何十年に一度の○○」に遭遇するのか分かりませんが、何が起こっても、たくましく、笑顔で過ごしていけたらと思います。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

なかなかお会いする機会はありませんが、十島村の教育を担う者同士、志は同じだと思います。共に協力し、高め合っていきましょう。